

令和元年度京都市地域リハビリテーション推進会議 摘録

日時 令和元年11月21日（木） 15時00分～16時30分

場所 京都市地域リハビリテーション推進センター研修室

出席 委員：上原，加藤，山下，沖，中西，麻田，平山，関，林，是澤，吉田，田中
井上，阪本，菅野，西尾

事務局：小下企画課長，田中相談課長，福田支援施設課長，
古川相談判定係長，小野田地域リハビリテーション推進係長，
櫻井高次脳機能障害支援係長，寺井企画係長，和田企画担当

開会

【事務局】

本日は大変お忙しい中お集まりいただき，御礼を申し上げます。

開会に当たり，京都市地域リハビリテーション推進センター（以下「リハセン」という。）
所長の西尾から御挨拶を申し上げます。

センター所長の挨拶

本日は大変お忙しい中，令和初めての地域リハビリテーション推進会議にお集まりいただき御礼申し上げます。また，平素からリハセンの運営に多大な御理解と御支援をいただき，この場を借りて厚く御礼申し上げます。

当センターは，地域リハビリテーションのより一層の推進と高次脳機能障害者支援に取り組んでいる。身体障害のある方が住み慣れた地域でその人らしく生きがいを持って生活していただける環境づくりを推進するための拠点として，様々な相談支援，研修と普及啓発等に取り組んでいる。また，脳を損傷したあとに発症する高次脳機能障害の支援拠点機関としての高次脳機能障害者支援センターと，社会生活の自立と，自立訓練の場としての障害者支援施設を開設している。

本日の会議は，お手元の資料のとおり，まず地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について，二つ目は，高次脳機能障害者支援の実施状況等について，報告させていただく。特に支援者への支援を意識して毎年内容，講師の充実を図っている，地域リハビリテーション推進研修，或いは高次脳機能障害者への様々な相談支援，研修，アウトリーチを意識して積極的に地域に出て行く「障害福祉サービス事業所等訪問事業」や「地域ガエルのお出かけ講座」といった取組を報告する。

地域リハビリテーションの推進は保健・医療・福祉・教育・介護・就労等，関係する皆様と相互に連携しながら進めていくものと考えている。本日も活発に議論いただき，来年度の事業運営の検討を深めていきたいと考えている。

【事務局】

本会議については、京都市市民参加条例に基づき、公開で開催することを説明。
また、委員改選後初めての会議となるため、委員及び事務局の担当を紹介。
その後、引き続き、上原委員に議長を、加藤委員に副議長を務めていただく
ことになった。

【議長】

それでは次第に沿って地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について事務局から報告をお願いする。

1 報告

(1) 令和元年度京都市地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について

【事務局】

資料に沿って、令和元年度京都市地域リハビリテーション推進事業及び相談事業の実施状況等について報告

<質疑応答>

【A委員】

電動車椅子について問題事例があることを聞いている。電動車椅子講習会については、介護職等の支援者も申し込むことができるのか。

【事務局】

支援者も申し込むことができる。

【A委員】

電動車椅子は、乗るために免許等はあるのか。

【事務局】

道路交通法上は歩行者の扱いである。

【B委員】

おはなし広場の事業について、30回と多くの回数を実施してもらい、ありがたく思っている。京都市が後援されている事業で、京都府失語症者向け意思疎通支援者養成研修会がある。昨年度で10名の修了者がいるので、活動の場として検討してもらいたい。

【事務局】

今後、連携の方法を検討してまいりたい。

【議長】

在宅療養の中で言語聴覚士は数が足りていない。在宅生活で困っている方多い。言語聴覚士会が行っている派遣事業については、言語聴覚士会に申し込めばいいのか。

【B委員】

ホームページで申し込んでもらっている。個人での申込は今のところ受け付けていない。今後は個人向けの派遣についても計画している。

【議長】

是非進めてもらいたい。

【C委員】

障害福祉サービス事業所等訪問支援事業について、どのようなフォローを行っているか教えてもらいたい。

【事務局】

当日指導した内容等については、訪問後、書面にまとめてフィードバックしている。

【C委員】

総合支援学校では、どのような内容の研修を希望されているか。

【事務局】

生徒それぞれの身体の状態に応じた具体的な指導等をしている。それを踏まえて、総合支援学校の学習会の場にも訪問させてもらっている。

【D委員】

（京都府理学療法士会、京都府作業療法士会、京都府言語聴覚士会の）3療法士会では協議会を立ち上げている。この協議会や作業療法士会では、イベントやセミナーを行っている。地域リハビリテーション推進センターとも共同で研修等を行いたい。

【事務局】

今後、連携について検討していきたい。

【議長】

地域リハビリテーション交流セミナーでの連携が考えられるのではないかな。

電動車椅子講習会は開始から年月が経過している。電動車椅子の事故数はどのような状況か。

【E委員】

29年度だったと思うが、過去10年間の死亡者数に近かったという新聞報道があった。電動車椅子メーカーも危機感を持っており危険性は認識している。事故件数等は把握していない。踏切内での旋回等で事故が起きている。バッテリー切れや転落などのイージーミスも発生している。

【議長】

障害について、小中学生への啓発が重要と考える。地域リハビリテーション交流セミナーについては、昨年度は児童館からの参加もあったとのことだった。実施場所がリハセンとなるので、難しい面はあると思うが、小中学生の参加を検討してもらいたい。

【事務局】

今年度は、働き盛りの方が脳梗塞で倒れてから復職するまでをテーマとして検討を行っている。企画内容により、小中学生の参加のしやすさも変わると思われる。今後は、小中学生の参加を念頭に置いた企画を行っていききたい。また、お出かけ講座等で小学校に車椅子の乗車体験を通した啓発等を行っている。

【F委員】

教育委員会としても、企画内容の情報を提供してもらえたら、小中学校に繋いでいきたい。引き続き、福祉教育での連携を行っていききたいと思っている。

【副議長】

先日、障害者スポーツセンターで、電動車椅子サッカーの大会があった。電動車椅子なので、重度の身体障害者でも行えるスポーツである。もっと知ってもらいたい。卓球バレーや水泳など、障害者スポーツは広まっている。

様々な訪問活動の中で、障害のある方の生活ニーズのアセスメントや、QOLのアセスメントをしているか。社会参加やスポーツへの参加、ボランティアの利用等、身体機能だけでなく地域生活がどれほど豊かになっているか、本人を中心に総合的に考えていくアプローチについて考えを聞きたい。

【事務局】

障害福祉サービス等訪問支援事業などのアウトリーチの事業に力を入れており、事業所等への後方支援を行っている。リハセンのもっている専門職の技術を地域に広めていく事業を行っている。地域リハビリテーション交流セミナーでは、一般の方に参加いただいております。御発言いただいた観点を取り入れて普及啓発を行っていききたい。

【議長】

リハセンと障害者スポーツセンターとの連携はやってもらいたい。ユニバーサルデザインの考えを広めてもらいたい。

【G委員】

別冊資料の障害福祉サービス等訪問支援事業の事例集は、中身は事業所で介護している職員向けのものである。ケアマネジャーとしては、障害や介護のサービス制度活用のための資料があればありがたい。区役所で、障害者手帳を申請した際に障害保健福祉のしおりを配布してもらえるが、ケアマネジャーには配布してもらえない。

【H委員】

介護保険側と、障害福祉側が相互に制度を理解し、障害のある方の生活の支援を行っていくことは課題と考えている。それぞれマニュアルの作成を検討しているところである。作成に当たっては協力をお願いしたい。手帳申請時にお渡ししている障害保健福祉のしおりについては、予算の制約があり配布部数が限られるので御理解願いたい。

【議長】

介護保険と障害福祉サービスでは、わかりにくい面がある。連携してやってもらいたい。

（２）高次脳機能障害者支援の取組について

【議長】

続いて、令和元年度高次脳機能障害者支援の実施状況等について、事務局から報告をお願いする。

【事務局】

資料に沿って、令和元年度高次脳機能障害者支援の実施状況等について報告

<質疑・応答>

【Ⅰ委員】

障害者支援施設に当会の会員からの意見や要望を伝えたい。通所者への送迎サービスを行ってほしい。リハ・エールに利用できる状態が掲載されているが、障害の程度が重いため利用できないという意見があった。また、年末年始に外泊をするよう言われたことがあると聞いたが、そのようなことはあるのか。面接から利用までに時間がかかるようだが期間を短縮することはできないのか。

【事務局】

送迎サービスは行っていないので、通所が難しい方は入所をお願いしたい。公共交通機関利用のための訓練も行っている。外泊については、家族との交流も重要であるという説明をしているものである。申請から利用開始まで１、２箇月を要している。これは各区役所での受給者証発行に時間がかかってしまうものであるが、できる限り早く対応するようにしたい。

【Ｂ委員】

就労支援のニーズが多いようであるが、相談開始から就労までの具体的な事例が知りたい。具体的な事例を知ることで、見通しをもって考えることができる。別冊資料のリハ・エールにも事例を掲載してもらっているが、どのようなプログラムを受けて、何箇月目でどういう状況になったかなど、より具体的なことを知りたい。

【事務局】

リハ・エールや、施設見学会の中で事例を紹介していきたい。

【Ｄ委員】

高次脳機能障害の研修を受講している支援者について、職種や人数について教えてもらいたい。

【事務局】

具体的な実績は持ち合わせていないが、多くの職種の方に受けてもらっている。例えば、医療機関からは理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、MSW等が参加されている。福祉の事業所からは、サービス管理責任者や支援員等が参加されている。介護保険領域からは、ケアマネジャーやヘルパー等が参加されている。ケアマネジャーの受講が増えているように思う。

【J 委員】

小児で高次脳機能障害のある方への支援については、訪問看護を行うにあたっても個別性があり、技術の習得が難しい。研修は、どのような単位で申し込むことができるのか。

【事務局】

今年度、初めて小児の高次脳機能障害に関する研修を行った。地域ガエルのお出かけ講座で研修は行っているものの、高次脳機能障害者支援センターでの支援実績が少ないので外部から講師に来てもらって実施した。小児の研修は対応していく必要はあると考えている。今後、必要であれば個別で調整していきたい。

【K 委員】

障害者支援施設は、身体介護が必要な方も利用対象としてほしい。

【事務局】

今後とも検討したい。

【G 委員】

高次脳機能障害の研修でケアマネジャーの受講が増えているとのことだった。ケアマネジャーは若年性認知症の方への支援で行き詰まることもある。若年性認知症と高次脳機能障害との施策、研修のコラボ事業について考えていることがあれば知りたい。

【事務局】

現時点では若年性認知症とのコラボということでは具体的な連携の話はないが、今後とも介護ケア推進課と連携して取り組んでいきたい。

【L 委員】

高次脳機能障害のある方への対応は難しい。一般の方に向けた普及啓発が大事である。各機関で行っている事業について情報共有し、理解を深めることが大事だと思う。

【議長】

高次脳機能障害について、まだ多くの市民がどのようなものか知らない。市民向けの啓発事業は、市民が参加しやすい形式で行っていく必要がある。また、当事者と家族の交流会事業は、家族同士の交流で気が楽になることがあるので大事にしてもらいたい。

本日は貴重な意見，要望をいただいた。事務局では，今後の事業がより良いものとなるよう努力してもらいたい。

【事務局】

貴重な意見をいただき感謝する。

本日いただいた意見を踏まえ，より一層充実した取組を行ってまいりたいと考えているので，引き続き御協力をお願いしたい。